

国際耕種 25 年の足跡

2009 年 12 月 14 日で国際耕種株式会社が産声をあげてから 25 年の月日が過ぎようとしています。

AAINews 第 61 号でも既に紹介いたしましたように、過去 25 年の間に日本の途上国に対する技術援助の活動には少なからぬ変化があり、その中で我が社の活動も大きく変化してきました。当初、乾燥地域における緑化造林、資源管理、農業農村開発分野における長期専門家派遣が中心だった業務から、海外における研修普及関連技プロや開発調査あるいは国内での技術研修業務そしてアフリカにおける稲作関連業務へとその活動の場を拡大して来ました。

季刊で発行しているニューズレターも当初は社員間の情報共有も兼ねた社内報的なものから、社外への広報を目的として我が社の業務成果や保有技術を紹介するものへと変化して来ました。さらに、この間社員間で話題となった「自然と人間の共生」、「ODA と NGO の連携」、「草の根型協力を考える」、「開発調査の在り方」、「技術協力活動と研修活動の連携」、「日本農業の今と国際耕種の関わり方」といった内容もシリーズもののタイトルとして取り上げて来ました。

また、設立当初 1 名だったスタッフも増減を繰り返しながらも、現在事務員も含めて 11 名に至っています。当初、乾燥地での長期滞在を経験した沙漠がぶれの集団といった感じだったメンバー構成から、営農、栽培、稲作、研修、農村社会、施設園芸、灌漑水利用といった広範な専門分野に対応できるメンバー構成に変わって来ました。そして、会社の業務を推進する中心的立場のスタッフがそうした新しいメンバーに移行しつつあります。

こうした数々の変化を遂げた 25 年間でしたが、この間「真に地域住民の役に立つ活動」、「適正技術の開発と普及」あるいは「適正規模の開発とは何か」ということを常に念頭に置いて、現地関係者との人間関係や信頼関係の構築を大切にして業務に携わってきた積りですし、今後ともこうした精神を貫いて行きたいと思っています。

さて、会社創立 25 周年記念のイベントを兼ねて会社の

ロゴマークを制定しようという動きがありました。社員および関係者からロゴマークを募集し、候補作品の中から投票によって選ばれた最優秀作品を今後会社のロゴマークとして使うことにしました。

選ばれたロゴマーク



三角形二つが「Appropriate」と「Agriculture」の「A」を、長方形一つが「International」の「I」を示しています。また、「土」、「水」、「緑」の三色は乾いた大地に水を満たし、植物を育む緑を示していると同時に、会社の活動分野の三本柱としての「人材育成」、「水」、「農業」をも示しています。

この機会に、ニューズレターの装いも一新することにしました。これまでの読者からの要望や読みやすさ等も考慮して、二段組みで編集することにしました。また、これまでの紀行文 1 ページ、シリーズもの 2 ページ、その他 1 ページといった編成にこだわらず、業務成果や保有技術の紹介記事あるいは新着情報をより積極的に載せて行こうと思いません。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

下の写真は今年の春、JICA 筑波センターにおいて野菜栽培コースの研修員達と一緒に満開の桜の下でバーベキューを楽しんだ時のものです。 (大沼洋康)

